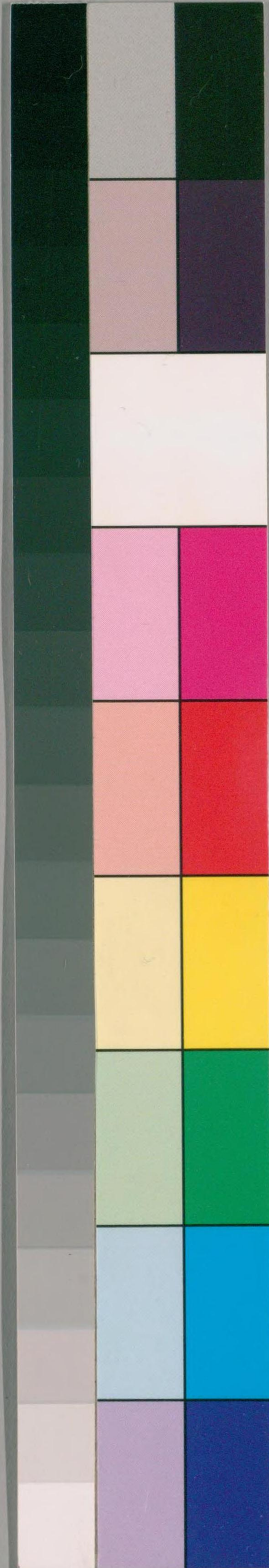


花供養

863  
140



国立国会図書館 タイトル『丙午花供養』 請求記号 863-140

ガラス使用



863-140



丙午花供養

天明六

意氣振ふれ縁

花を奉るこゝろあり

あはれこゝろあり

おのゝこゝろあり

~~~~~

あはれこゝろあり

その思ふ縁の衣

増ふ縁の衣



深更

渭川

有庸

△物





口のこころあれた男ともあり  
舟れ無牛の角くらう碓の如れ  
意湖珠とよりのを返りぬ  
月のもこ机も紙もあよそみ  
又母とあつて中の居るくうり  
葵  
車蓋  
南采  
白岱  
其成

余畧

酒飲り下さうなつてむの山  
花のや都る石こも涙あ如  
おしらや花のわふは下り  
花吹く山口さるたあ花  
幕をりをうけり中ね様  
山挽るあ様うきく奥のむ  
おのられりはうかむむうれ  
渭川  
南采  
蛙面  
平谷  
角塔  
東雨  
其成





之中に凌ぎ振乃葉耀の香  
 けしきさめるゆふ美人はく花  
 滝くあぐらふらふの振りのれ  
 志の道回をせりりり山振  
 杜の子をるれあゆや山はく  
 花はくやゆきひける傍一人  
 夕振あぐら酒あぐら押のこあり  
 溪の花をひてくはるり龍心  
 長庚

酒振こくくまきむの香  
 振戸やま台明を思ひあ  
 おりくさあれた振りるそ 夕振  
 咲や花入り思ひ原の散る色  
 振物今さけし川酒二合  
 遠くいてそせきく面をく振う那  
 むくろくくく小町く花のあぐら  
 晴や振いふあぐらる清く声  
 志該  
 紫葉  
 尼侍流  
 女  
 月峰  
 定雅  
 在貫  
 百葉



あはれをいひし錦の花見えぬ  
袋士の者さうしうのむろ奥女 各鳥  
きとや花と臨みか曲りる 甫尺

花や切銀分ると意 車蓋  
般多流りくちう也たう有 有庸  
花の里むもいぬ子もあつらり 羅外  
あうの家様うむふきかた 文堂  
むちや衣を洗う 終番

砂様 遠くまきか 猿のあ 眠江  
片心花よ毎のや 風りき 曾陸  
むちやたう柄をと吹こふ 白袋

端々ぬ毛そりぬの山様 玄子  
ちう様あやうれいさぬ山 巴溪  
代を澄む思ふ舞しや山はく 嵐月

心あや様よりけし牛の皆 我春



色纏も是も花うゆふゆふ 都花

掛茶をう流も傍し山にくは 如此

花う色踏あしりり上 一 峯

老人の巾姓えくく急如下 芽木

娘らる山静あゝ海う那 免石

小原女うあゝぬえやむ花の花 南路

長生を人うくくゆいをいふ 南我

花のゆふえをたぐく靴うふ 百明

人うふのゆふくくくくくく 曉山

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ ちと

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ 重厚

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ 大溪

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ かし

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ 寄銘

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ 花街

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ



有るはくはありて花う東山 文推

滝橋守碑をていふ人むのき 都 荏

人いよむく一舞代の幕のやれ <sup>土京</sup> 杜市

花あはれ花や成るむえあや 松磨

酒愛より字流くむろつ山振 <sup>タイコ</sup> 百哺

子とほれと人いふれくめ様 踏月

拙一人むうきく山流る如 夕馬

又うそはふりるや山乃上 氣角

競人もあをさう山流るむり如 瓶末

とよこらまほりきぬ鳥とあな花と <sup>ハコタ</sup> 斗流

あはれはゆめちあもあうもの山 古律

あはれはゆめちあもあうもの山 南化

あはれはゆめちあもあうもの山 新子

あはれはゆめちあもあうもの山 <sup>ウツハ</sup> 不潔



深い山をさしぬきて住く  
大川 巨洲

明いこやの下の下さう  
小谷 湖青

子とさゆりしりれと山  
カイツ 香拙

いとふらるる春の煙り  
新橋 泉柳

やうと年暮りはもあれた命  
音牛

かひらと花味増踏里色  
石戸 良文

人あゆの様よあつた各  
亀岡

お花よりうらやま  
善徳寺 淡菰

行軍や花笑中よ  
平松 亜溪

隠いらうとそのみらう  
女 志

ゆくり城を流れて山  
辻村 雲仙

暖や城うらやま  
紫水

桜しきりりしり  
梅本 柏子

夕暮や暮を見細く  
隆雄



山

梅 カ、コ 志 計

子 カ、コ 成 山

長 カ、コ 梅 支

谷 カ、コ 声 志

笑 カ、コ 可 笑

吟 カ、コ 思 声

む カ、コ 唐 邦

續 カ、コ 唐 州

侍 カ、コ 如 江

折 カ、コ 芦 角

岩 カ、コ 素 水

一 カ、コ 翅 英

草 カ、コ 蓮 車

心 カ、コ 梨 風

心 カ、コ 柏 由



あまのこをばあう松を様う那

毛叔

二枝

川一う細よして成し山さく

ハニシ

吾友

振先の火あうううゆ

弥雲

花の枝よ毛刀柳ふ奴丁

白子連

潘水

是をよこあこよとくそゆ様

浣水

芥一う柳の栞るまてこり山様

蕨人

山様ちうぬふと吹ゆしひ

無曲

境毫乃煙の情しひう様のみ

可計

奥う山やあこく様うさこはし

女

千之

我よこやあこくふう心思のみ

霞寺

喰今このそ花ふらじと山鳥

津へ夕

梅二

雨をよか雪の栞う雁うり

米二

七うららの子れきまやわ戸の花

万化

むのは美の戸ひくく飯齋のみ

一身田

支那

山をよこふ人まのれはくく心

藤卓



おぼろのさよふの酔もさよふ  
持しけしむらさきもさよふ  
花士の氣もさよふのさよふ  
花卿

野田

色よ香ふらもさよふもさよふ  
流しめしむらさきもさよふ  
花をさよふらもさよふ  
諸人の氣もさよふのさよふ  
山

は

文波  
有方  
架橋  
楚橋  
文符

おぼろのさよふの酔もさよふ  
花満ちぬもさよふ  
酒をさよふらもさよふ  
路島

おぼろのさよふの酔もさよふ  
花満ちぬもさよふ  
酒をさよふらもさよふ  
文虎

丹波橋

ヒカミ

おぼろのさよふの酔もさよふ  
花満ちぬもさよふ  
酒をさよふらもさよふ  
文虎

但馬

松臺

浪江



弁田や梅流しとくしり先  
と食ふ辛都夢よよむとくしり先  
和旦

十原

おしめとくしり風の梅うさ  
わかす  
毒五

おしめとくしり風の梅うさ  
毒太

おしめとくしり風の梅うさ  
谷泉

風の花心をくつたのくしり先  
志乃まね  
赤濱

小舟の流傳ふ京の女中や歌のむ  
行若田日市  
る曹

おの花をふかすよ成る日のまね  
梅屋五  
湖岸

おの花をふかすよ成る日のまね  
季山

おの花をふかすよ成る日のまね  
文里

此山をけしとて花見ふ  
房丸磯村  
倭風

山梅をさすくしり風の梅うさ  
梅流

おしめとくしり風の梅うさ  
赤我

おしめとくしり風の梅うさ  
梅表



松

脱かけの神上積る花の香 柳月

くろくろと花はまをくろくろ 傳水

お二色の扇より一枝様 英

松を花の系をさく山 加賀 三木

あけくちまの松の松の松 胆竹

是の流るまの如やおさく 麦風

嵐山様と松の系あり 流花 二松

ちろくを拾ふあけつ又一壺 山又

あつた花の色静く夕花とめ 素雅

石ニツ向ふの山やおこく 不十

首のゆやお見えあれるの松み 江涯

持人もる人まの松 上下仁田 真淵

ワの合心競へ花の流 文流 柳音

花の不二神の都はほくきん 翔宇

あふなる舟より見くつる花流る 望春

ITD





五

桜吹雪のまの堀山の一さうり

甲州

牧又

山吹の吹雪や桜の鈴ほけ

鈴河

光る花の尾崎や夕さく

藤菱

まろりやあの花をさめし

伴良

岩しそ家よりとゆる桜

櫻冠

山吹やしらあはる系桜

生洞

夕草ややととらふと

ワルカ

悦溪

おぼろけ花のまろり

五馬

花のく月と山塔のまろり

丹後田老

木越

日傘とくおのまろりのまろり

梅里

長あしらのまろり

法

社牛

谷川とまろり

葉桂政

芦仙

あまのまろり

下総

尺丈



863  
140

意門書林

菊舎太兵衛持

京三条通御幸町西入丁



成山取持

14189

梅野より寺

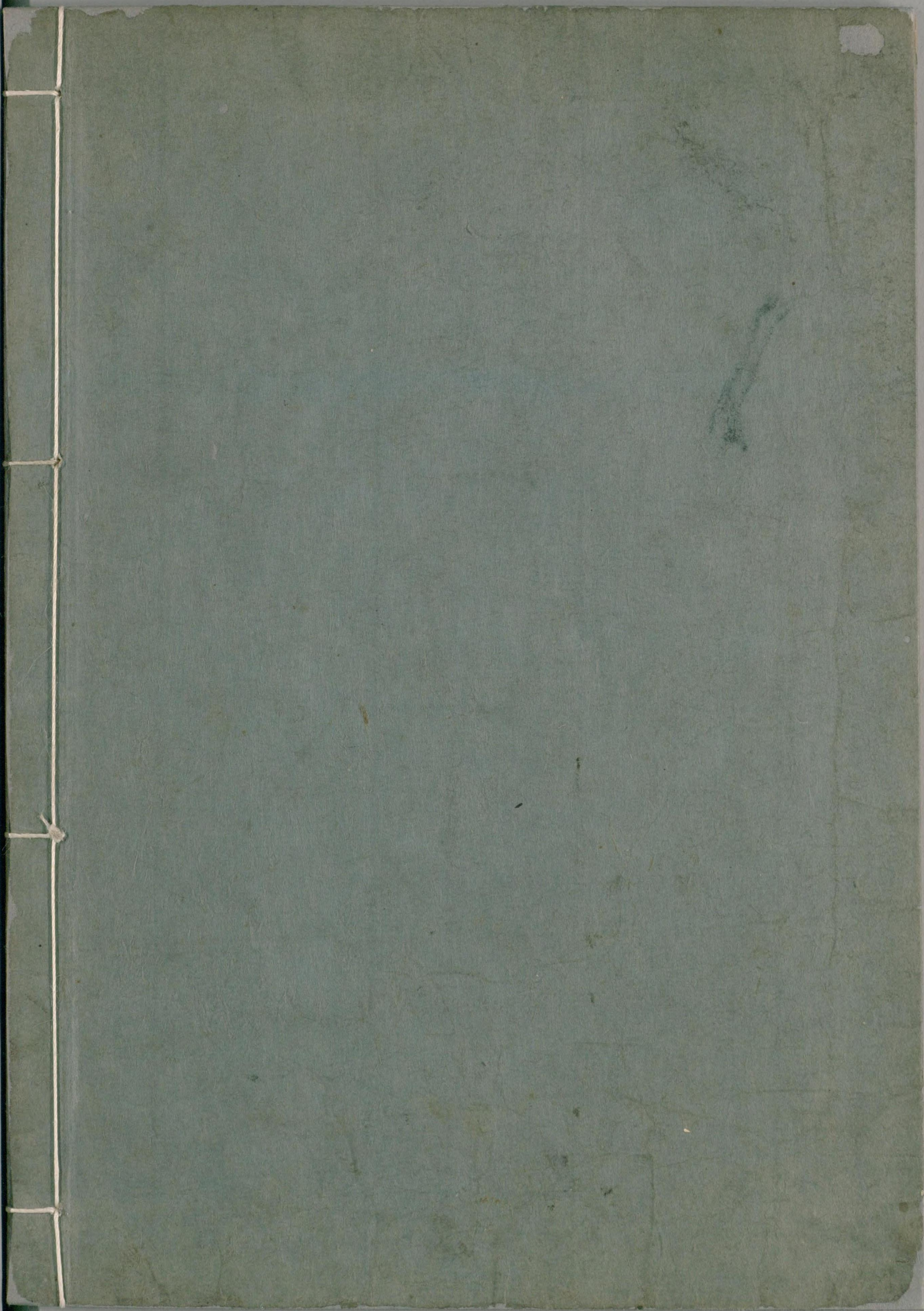
アムと都一の事

累更

順位のあはゆるまゝしる梅  
 あまれはゆしむるまのまゝしる梅  
 水も流るる夜いまゆりし山梅  
 甲しくいむまのまゝしる梅  
 ひとすけは花のまゝしる山梅

トヤニ 布舟  
ヒロシ 退冥  
長崎 可友  
 車文  
 朝更





国立国会図書館 タイトル『丙午花供養』 請求記号 863-140

ガラス使用